



令和8年1月28日
北陸信越運輸局観光部

「観光と二次交通の現状に関する調査」を実施します。

政府目標の2030年の訪日外国人旅行者数6000万人の目標達成に向け、地方部へのさらなる誘客が課題となっています。しかし、地方部では駅や空港等の主要な交通結節点において、タクシーがつかまらない、タクシードライバーが確保できないなどの二次交通の課題が生じています。

本調査は、地域が抱える観光と二次交通の課題や、先進的な取組事例を調査することにより、同種の課題を抱える地域の課題解消を目的として実施するものです。

■調査期間

令和8年1月下旬～3月初旬

■調査概要

- 管内の主要交通結節点（新幹線駅など）があるDMO・自治体等に対するヒアリング調査
- 地域が抱える観光客と二次交通の課題を類型化し、課題別にどのような対応がとりうるかについて、先進的な取組事例とともに整理

■調査結果の公表

調査結果については、当局ホームページにて公開し、DMO・自治体関係者からの二次交通に関するご相談に対応して参ります。

※最終とりまとめのイメージは別紙を参照してください。

【お問い合わせ先】

北陸信越運輸局観光部観光地域振興課

担当：森田、梅村、江田

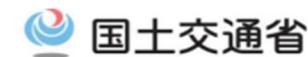
TEL：025-285-9181

Mail:hrt-hrt-kankou★gxb.mlit.go.jp

※メール返信の際は「★」を「@」に変更してください。

※最終的なまとめイメージ（R7.11 北陸信越運輸局 DMO 意見交換会配布資料より）

地域が抱える観光と二次交通の課題



発表者作成

地域が抱える観光客と二次交通の課題		近年の主な対応例(当局管内を中心に)	
①イベントなどの一次的な需要に対応したい 【花火大会・音楽イベント】	日本版ライドシェア	湯沢町(フジロック) 「日本版ライドシェア」新潟で導入8カ月 認知度、配車アプリ...普及に向け見えてきた課題 深層リポート - 産経ニュース	
②駅から遠くの温泉旅館への送迎(公共交通が脆弱) 【観光施設需要】	無償運行(旅館バス)	あわら温泉(送迎共同化) 環境に配慮した観光へ！あわら温泉で送迎共同化実験を開始 北日本新聞webunプラス	
③観光客が多く、供給が追いつかない 【人気観光地】	配車アプリの共通化	白馬村(Uberの導入) 長野・白馬村のタクシー、ウーバーで配車 海外客も便利に - 日本経済新聞	
④需要が限られ、対応する交通事業者が少ない 【多くの地域に共有】	公共ライドシェア	新幹線駅を持つ自治体など	
⑤タクシーの営業時間が短く、夜や早朝の送迎ができない 【多くの地域に共通】	日本版ライドシェア 公共ライドシェア	新幹線駅を持つ自治体など 石川県小松市 “復興ライドシェア” 全国自治体ライドシェア連絡協議会	
⑥交通事業者の運転手不足により供給力が弱い 【震災後の能登半島など】	日本版ライドシェア	七尾市(一般ドライバーの活用) 石川県七尾市の老舗タクシー会社がライドシェア参入へ 能登地区で初 [石川県]: 朝日新聞	
⑦観光ガイドとともに車を使ったツアーを実施したい 【ガイドの所有車両の利用】	無償運行(ガイド車)		